

## 2019年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	○「自分磨き」を合い言葉に、お互いを認め合う関係を築くことができる子供の育成に取り組んできた。学校行事において自分のめあてを設定して取り組み、粘り強く取り組む姿が増えた。 ○メディアコントロールが新たな課題になってきている。継続的な指導と魅力ある学校づくりを、家庭と連携を取りながら進めていきたい。			
	今年度の重点目標	成果と課題	評価	改善策・向上策	
	1	支え合う学級づくり	Q-U検査やアンケートから児童の状況や実態をつかみ、情報を共有しながら支援にあたることができた。道徳を中心に、他者との違いを許容する心の育ちをめざした。	A	力を合わせて取り組んだり課題を解決したりする経験を取り入れながら、認め合う関係づくりを進めて行く。
	2	学び合う授業づくり	1時間の授業で何を学んだのかをふり返ることを大事に考え、授業研究や研修を行ってきた。さらに自分の考えを持ち発信する力を育てたい。	A	「できた」「分かった」感につながるように、学習の振り返りを大切にすることを継続していく。
3	高め合う活動づくり	学校行事や学習場面で、個のめあてに向かって粘り強く取り組む力の育成をめざした。運動会や音楽会などの行事において、達成感、満足感を持つことができた。	A	児童が主体となる活動を仕組むとともに、異年齢との交流の場を検討していく。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	児童会の活動として、年間を通してよいあいさつの姿を広める取り組みを行った。校内でのあいさつは向上したが、地域やお客様へのあいさつが今後の課題となっている。	B	校内のお客様や地域の方に、自分からあいさつできるように、大人も見本となるよう意識していく。また、顔見知りの地域の方を増やしていく事も考えていく。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めることができたか。	児童の約89%が「仲良く過ごすことができた」と感じている。さらに、互いの違いや良さを受け入れ合って、友だちとよい関係を築いたり課題を解決していったりする力の育成を目指していきたい。	A	自分の考えを持つ、考えを発信する、相手の考えを受け止めることを、日々の生活や授業の中で引き続き大事にしていく。グループ活動などの場の工夫も考える。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	学校が楽しいと感じる児童が1学期末よりも増えた。職員間で連携を取りながら、個に応じた支援を進めてきた成果だと考える。今後も全職員で、居心地の良い学校づくりに取り組んでいく。	A	不安や悩みを抱えている児童もいる。背景を丁寧に探りながら、家庭と連携を取り合って対応していく。友だちとつながりが持てるような支援を考える。
	授業 学び合う	学習の約束・きまりを守り、深める学習	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	落ち着いた雰囲気の中で学習に向かう姿勢が増えてきている。あいさつの前にしっかり息を吸って声を出すことを全校で取り組んできた。今後も、相手を意識して話す開	A	学習の約束・きまりを年度当初や学期の始めに確認して取り組んでいく。授業終末の振り返りの質を高めることが深める学習に

				く姿勢を大事にしていく。		つながると考える。
		自主的・計画的に取り組む家庭学習	「紡ぐ」を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	宿題への取り組みはやや向上した。保護者から「つむぐ」を児童、保護者、担任の三者で共有できることがよい、「つむぐ」の内容が、親子共通の話題になっている、という声をいただいた。今後も家庭と連携していく。	A	宿題の提出にとどまらず、「つむぐ」を活用した自主学習の支援について、職員間で情報を共有する機会をもち、さらに支援を深めていきたい。
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	ふり返りに視点をあてて校内研修を行った。児童の評価は上がり、職員の、児童の評価は上がり職員の評価がやや下がったことから、振り返りの質の向上を求めている結果ではないかと考える。	B	「振り返り」については現在行っている校内研修を継続して、お互いの授業力をさらに高めていきたい。
	高め合う活動	個の目標に向かって取り組む	体育的行事・音楽活動の中で、個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	粘り強く取り組むことができるように、個に応じためあてを設定することを意識して、行事の準備を進めてきたことで、児童の自己肯定感に高まりが見られた。自分のめあてを決め、粘り強く取り組むことを継続する。	A	児童が他者との比較ではなく、自分と向き合い自分を磨くことができる力を育てることをめざして、様々な場面で個のめあてと振り返りを位置付ける。
		異学年との交流	互いの成長を感じ合う場として縦割り清掃や姉妹学級交流を計画し、児童が主体となって活動できるように指導・支援することができたか。	年間を通して、1,6年の姉妹学級で給食や清掃の交流(お手伝い)を行った。上級生にとって、有用感を感じ励みとなる場にもなっていた。縦割り清掃では、上級生の姿を見て、意欲的に清掃に取り組む低学年の姿が見られた。	A	11月の学校評議員会で要望があったように、来年度は異学年にとどまらず、異年齢との交流の機会を積極的に探していきたい。
		地域との学び	地域資源(人材・題材等)を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	児童の主体性を大事にした生活科や総合で地域の方との学習のまとめを行ったことで、達成感につながった。クラブ活動では、地域講師の方々の専門性に触れ、興味関心を深めることができた。	A	地域の方との学習や活動を、キャリア教育としても大切な学習の場として位置付けることを考えていきたい。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。	月1回の学校だよりを発行し、学校の取組や児童の様子を発信した。学校ホームページを通して、地域学習の様子	A	PTA 活動や地域の方とのつながりについても発信していきたい。
		PTA や地域の方々と連携	PTA や地域の方々と連携を十分に行うことができたか。	通学路の安全・防犯に関わって、自治会やPTA と連絡を取り合い、情報を共有することができた。熊の情報も自治会から速やかにいただき、保護者へ伝えることができた。	A	安全連携会議を来年度も2回開催し、保護者・地域・学校の三者で情報を共有し、協力して安全・安心な地域・学校づくりに取り組む。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった